

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol. 2 2 8】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 力所へ BCC 送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

【目次】

1. 医療事故調査制度 5 年 活用される工夫をさらに (添付)
2. 医療事故調査制度、実態検証へ 「報告推奨」助言に従わず多発 (添付)
3. 「ウソについての本当の話」BS 世界のドキュメンタリー
4. 精神疾患の入院患者虐待 元看護助手に懲役 4 年 首謀者とは認めず 神戸地裁判決 (添付)
5. 目の不調は脳の SOS (週刊朝日_2019 年 11 月 8 日号) (添付)
6. 伝説のマトリ捜査官が語る「大麻の恐ろしい現実」
7. 弁護士のブログ (名古屋地裁民事 4 部 (医療集中部) の裁判官たちに問いたい!!)
8. 睡眠薬依存症患者の婦人科手術_LiSA_Vol.27_No.7_2020 (松本俊彦) (添付)

【記事】

1. 医療事故調査制度 5 年 活用される工夫をさらに (添付)

<https://mainichi.jp/articles/20201006/ddm/005/070/083000c>

2. 医療事故調査制度、実態検証へ 「報告推奨」助言に従わず多発 (添付)

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/59104>

3. 「ウソについての本当の話」BS 世界のドキュメンタリー

<https://www.nhk.jp/p/wdoc/ts/88Z7X45XZY/episode/te/ZV6YVLYRVZ/>

『なぜ人はウソをつくのか？ウソをどのように見破ることができるのか？ウソのメカニズムや社会的影響にさまざまな視点からアプローチしたエンタメ科学ドキュメンタリー。』

人間は生活の中で、平均 1 日 2 つ以上のウソをついているという。ウソをつくのは人間ばかりではない。動物の世界でも、生存競争を勝ち抜いて行く上で、ウソがまかり通っている。一方、ネット時代のウソはフェイクニュースとして、社会に大きな影響を与えるようになっている。科学、社会、歴史など様々なアプローチでウソの“真実”に迫る。』

裁判官や医師も 1 日に 2 つは嘘を言っている。その嘘を信じた患者が悪いということか？！

4. 精神疾患の入院患者虐待 元看護助手に懲役 4 年 首謀者とは認めず 神戸地裁判決

<https://mainichi.jp/articles/20201012/k00/00m/040/021000c>

5. 目の不調は脳の SOS (週刊朝日_2019 年 11 月 8 日号) (添付)

若倉医師の警告を紹介

6. 伝説のマトリ捜査官が語る「大麻の恐ろしい現実」

<https://news.livedoor.com/article/detail/19041400/>

7. 弁護士のブログ（名古屋地裁民事4部（医療集中部）の裁判官たちに問いたい！！）

<https://www.kitaguchilaw.jp/blog/?p=4809>

以下引用

『このほど、名古屋地裁民事4部（医療集中部）の裁判官たちから、言い渡された医療過誤訴訟での「敗訴」判決を読んでいて、つくづく思う。もし、あなた方（裁判官ご自身）が、亡患者と全く同様の病態に陥ったとして、あんなにも「いい加減な」診察をし（医療水準として求められる鑑別目的に必要な諸検査を尽く懈怠し）、レトロスペクティブには、診断を間違えていたことが判明し、かつ、正反対の治療を施し続けていたことが判明し、それ故に、裁判でも、法廷でも、ウソをついていたことが

証拠上も明白となった状況のもとでも、あなた方（裁判官ご自身）は、アノ被告医師のもとで、診断・治療を受けたいですか????

上掲・被告医師に、あなた方の大切な家族の診断・治療を委ねても構わないのですか???

医療過誤訴訟 “ 冬の時代 ” （患者側にとっての）といわれて久しいが、このところ、立て続けに「思わず口が開いてしまう」ような判決を受けている。』

名古屋によらず、全国の司法で「医療過誤の冬の時代」が続いている。想像だが、自民党と医師会の蜜月関係により

最高裁長官を指名できる内閣の方針を忖度して、医師会が希望する「医療過誤全否定の判決時代」を創作している

のだろうと思う。最高裁判事への影響力から「公正・公平であるべき司法システム」を歪めているのは、アメリカだけではない。

8. 睡眠薬依存症患者の婦人科手術__LiSA__Vol.27__No.7__2020（松本俊彦）（添付）

名古屋ベンゾジアゼピン訴訟で、BZDの影響を全否定したNCNPの松本俊彦の論文（LiSA）を入手しましたので、お送ります。

ウェイン氏が翻訳したアシュトンマニュアルを引用し、アシュトンマニュアルでは、減薬が早すぎるとしています。

間もなく、名古屋地裁でNCNP松本俊彦を被告する訴訟が始まる。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史